

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成28年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
28-5	アジア都市における‘場’の機能を持った道路設計・運用に関する研究開発	横浜国立大学 教授 中村 文彦	B
<p><研究の概要></p> <p>日本を含むアジア都市における交通結節点徒歩圏の道路空間を、都市活動の拠点となる「場（Place）」として改善する設計・運用方法を構築する。そのために 1)現況の利用実態の特徴と課題提示、2)都市活動特性に応じた設計・運用技術提案、3)実証実験による評価を行う。</p> <p><中間評価></p> <p>アジアおよび日本の都市における事例調査が適切に実施されているが、サブテーマの研究全体における位置付けや最終的に達成すべきゴールが明確でないという課題があるため、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none">エネルギーハーベスティング技術に関する検討を行う必要性、および、他の実施項目との関連性について再検討した上で、場の機能を持たせた結節点のデザインに研究の焦点を絞るようにしてはどうか。2年目に提案するとされている技術パッケージは、最終的に達成すべきゴールを明確にした上で、より具体性のあるものにしていただきたい。また、国内においても有用なものとなるよう、確実にできる内容に焦点を絞って達成するようにしていただきたい。アジア諸国と日本の歴史的、文化的、制度的背景の違いを考慮しながら、研究を進めてほしい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第31回新道路技術会議において審議したものである。